

1. 行政運営の組織マネジメントについて
 - (1) 求められる管理職のマネジメント力について
2. 入札制度について
 - (1) 現状と今後について
3. 市民利用施設の熱中症対策について
 - (1) 未整備の屋内施設・屋外施設について⇒詳細は下へ
4. 都市計画道路等について
 - (1) 上野・長宮線整備（踏切立体化）の進捗について⇒詳細は下へ
 - (2) 東岩槻駅南口ロータリーの改修について
 - (3) 蓮田スマートインターまでのアクセス道路について
5. 公共交通・移動手段等について
 - (1) レッドタクシーの運行再開について
6. 学校リフレッシュ計画等について
 - (1) 施設複合化について⇒詳細は下へ
7. 学校給食について
 - (1) 制度の現状と今後について⇒詳細は下へ
8. 市民の安心・安全について
 - (1) 「想定外」への「備え」について

未整備の屋内施設・屋外施設について【答弁者：都市局長】

Q： 空調施設未整備の屋内施設（岩槻文化公園体育館）に空調を設置すべき。また屋外施設にはトレーラーハウスのような休憩施設を設置することが必要ではないか。

A： 岩槻文化公園体育館は、メインアリーナのほか多目的室、武道場などを有する複合施設で、指定避難場所に指定されており、避難所運営の観点からも課題がある。今後、設計業務を実施し設置に向け取り組んでいく。屋外施設の熱中症対策については抜本的な解決方法が無く、トレーラーハウスの活用も含め、他都市の取組も参考にしながら研究していく。

上野・長宮線整備（踏切立体化）の進捗について【答弁者：建設局長】

Q： 都市計画道路上野長宮線（岩槻区古ヶ場 1 丁目から春日部市増戸を結ぶ都市計画道路で、1 月に国道 16 号バイパスまで開通）の東武野田線との交差部については、ボトルネック踏切に指定されており、立体化の計画があるが未整備となっている。立体化に向けた今後の取り組みについて伺う。

A： 整備時期については現在未定であるが、春日部市区間の供用開始に伴う国道 16 号バイパスからの流入や令和 7 年 3 月に開通した国道 122 号蓮田岩槻バイパスへの交通量の転換など、交通状況の変化が想定されることから、周辺地区における交通状況の把握を行っていく。また、踏切立体化の構造について、都市計画決定時と沿道の状況も変化しているため、事業化にあたっては、施工性・経済性を考慮し、検討する必要があると認識している。

河合小学校との施設複合化について【答弁者：教育長】

Q： 地域から設置の要望が挙がっている河合地区への公民館の整備について、学校施設リフレッシュ計画の中で河合小学校のリフレッシュ工事が予定されていたと思うが、その複合化について見解を伺う。

A： 公共施設の複合化については、「さいたま市公共施設マネジメント計画」において、機能をできるだけ維持しつつ施設総量を縮減する有効な手段のひとつとなっている。岩槻区の新たな公民館の整備については、岩槻城址公民館が県の指定史跡内にあり増改築が困難であるため、候補地を検討している。整備に向けた検討にあたっては複合化を前提とするとともに公民館の配置バランスや区内人口分布等を総合的に勘案し整理を進めている。河合小学校リフレッシュ工事も全体的に計画通りに進捗していない状況があり、改めて検討が必要のため複合化についても、リフレッシュ工事の時期が決まり次第、公民館のあり方も含めて、然るべき時期に検討していきたい。

学校給食の制度の現状と今後【答弁者：副教育長】

Q： 学校給食の食材納入業者の登録・選定・発注に関する制度の現状と給食無償化における食材納入の制度について伺う。

A： 本市では、食材の納入業者の登録制度を設けている。業者選定については各学校において業者選定委員会を開催し選定している。地域の活性化、及び地域の食材を学校給食に活用することで、食を支える方々への感謝の気持ちを育むなど、食育推進の観点から地元業者を活用するように、各学校が選定している。また、発注においては質と量を保った給食を提供できるよう各学校で献立を作成し、発注している。

令和 8 年 4 月から小学校給食無償化を開始する予定と国から示されているが、本市では、地場産物を活用した学校ごとに特色のあるおいしい給食を提供しており、小学校給食が無償化した場合においても、各学校が地元業者を活用できる現在の制度を維持できるよう努めていく。



安心安全な踏切へ！！

兼ねてよりご要望をいただいております岩槻駅最寄りの野田線第 48 号踏切は、歩行者や車両の往来が多く狭い踏切でした。只今、歩行空間を確保するための拡幅整備が行われています。

